

施策 No.	政策名	快適な暮らしのまちづくり	主管課	企画課	主管課長名	秋山 健一
5-4	施策名	公共交通の充実	関係課	都市整備課、商工観光課、学校教育課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	
	市民		①桜川市人口	人	見込値	41,278	41,008	40,738	40,467	40,197
実績値					41,278	40,483				
				見込値						
				実績値						
				見込値						
				実績値						
的	施策の意図	成果指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	
	誰もが気軽に公共交通を利用して移動できている。	①市内の公共交通機関に満足している市民の割合		%	目標値	20.0	22.0	24.0	26.0	28.0
実績値					20.2	17.5				
②コミュニティバスの利用者数			人	目標値	18,000	38,400	68,400	72,600	76,800	
				実績値	31,273	64,179				
				目標値						
				実績値						
			目標値							
			実績値							
成果指標設定の考え方	①コミュニティバスの運行により、毎年1%程度の満足度上昇を予想している。今後、公共交通の充実に図り、平成33年度には市民の4人に1人以上が満足している状況を目標としている。 ②1便当たり2.5人の利用者数を目標値としたが、平成29年度後半より目標を上回る乗車状況のため見直しが必要である。そこで、桜川市地域公共交通再編実施計画に掲げた、平成33年度の1便当たり利用者数6.0人を目標値とする。(平日:28便×240日、土休日:23便×125日と想定)									
成果指標の把握方法と算定式等	○対象の人口は、毎年10月1日の常住人口。 ○①市内の公共交通機関に満足している市民の割合は、市民アンケートより求める。②コミュニティバスの利用者数は、運行事業者からの利用実績報告より求める。									

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	市民アンケートで把握している「市内の公共交通機関に満足している市民の割合」について、満足及びやや満足の割合が平成27年度16.4%、平成28年度17.4%、平成29年度20.2%と少しずつ上昇してきたが、平成30年度は17.5%と低下している。これは、これまで県西総合病院への通院にデマンドタクシーを利用する方が多かったが、病院再編により設立した県西部メディカルへの通院には利用できないことなどによると考えられる。 一方、コミュニティバスの利用者数は、平成29年度が31,273人であるのに対して、平成30年度が64,179人と倍増している。これは、桃山学園の通学利用のほか、高校生の通学利用が増えたことが大きな要因であると考えられるが、通学以外の利用も増えてきており、徐々に市民への周知がなされ日常生活の足として浸透してきているものと思われる。また、土休日用で雨引観音バス停の利用が多いほか、真壁のひなまつりなど観光での利用も増加の要因であると思われる。		

2) 成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った	<input checked="" type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを下回った	
背景・要因	市民アンケートで把握している「市内の公共交通機関に満足している市民の割合」について、満足及びやや満足の割合が平成30年度17.5%であり、目標値の20.0%を下回った。これは、これまで県西総合病院への通院にデマンドタクシーを利用する方が多かったが、病院再編により設立した県西部メディカルへの通院には利用できないことなどによると考えられる。 コミュニティバスの利用者数は、平成30年度64,179人であり、昨年度上方修正した目標値の38,400人を大きく上回った。これは、平日の高校生による通学利用や土休日の観光利用が増えたことが要因であると考えられる。平成31年度は高校生利用が更に増加しており、前年度に対して利用者数は増加傾向にあると思われる。		

3. 施策の成果実績に対しての総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対しての総括	今後の課題・方針
<p>施策の目指す姿の実現に向けて設定した成果指標について、実績は目標値どおりの成果が出ており、年々上昇傾向にある。</p> <p>これには、以下の2つの事業が大きく貢献したと考える。</p> <p>(1)コミュニティバス運行事業では、桜川市バスのニーズ調査を踏まえた運行時刻やルートの見直しをはじめ、待合環境整備や利用促進の取り組みを行い、利用が大幅に増えた。平成30年10月からさくらがわ地域医療センター経由便を設け、通院手段の充実を図った。</p> <p>(2)デマンド交通運営事業では、平成30年10月からデマンドタクシーの利用対象者を65歳以上の高齢者や障害のある方等に限定し、効率的な運行継続に繋げた。</p>	<p>令和元年度においては、より良い公共交通網整備に向けて以下の取り組みを重点的に行う。</p> <p>(1)小学生の通学の安全を確保するため、令和元年9月から桜川市バスの運行ルートを見直し、バス待合所を整備する。</p> <p>(2)日常生活が不便なエリアの移動手段を確保するため、令和2年4月から運行予定の市内巡回ワゴン導入に向けた準備を進める。</p> <p>(3)公共交通に対する市民の意識醸成を図る。</p>